

第 46 回宇都宮市民芸術祭 彫刻部門 審査総評

第 46 回宇都宮市民芸術祭彫刻部門の出品数は 8 点でした。内訳は一般が 2 点、高校生 6 点でした。例年より出品点数が少なくなっていました。素材や技法にこだわった多様な作品が出品されました。若い感性豊かな高校生の作品は、鑑賞者の立場からなぜこのような題材選び、立体作品として制作したのか。直接作者からの言葉があれば理解できるのか？作品を見ながら考えてしまいました。

一般の出品が減少してしまい、残念でなりません。「彫刻」作品を作ろうと考えるより「立体作品」として制作すると考えてはとも思っています。

市民芸術祭賞は「虫の宿」になりました。陶器で制作された虫のような形態を中心に棒状の素焼き 8 本をランダムに立ててあります。作品の下に敷いた青緑の布も幻想的な雰囲気を出しています。虫のような形態の表現力は確かな技術が見受けられます。

準市民芸術祭賞は「一縷の望み」です。毎年出品をしている方のテラコッタの作品になります。題名通りの作品であり、もうこれにしがみついて…

細かいところですが、頭像では耳の位置が重要になります。実際にデッサンをして確認しながら制作するとより良くなると思います。

審査長 島田 幹男